

## ハンディキャップ委員会活動へのご協力のお礼とお願い

2009年9月吉日

障がいを持つ方々のスキーをはじめとするウィンタースポーツを支援してゆく目的のために発足したハンディキャップ委員会は 10 年目を迎えます。数多くのボランティアの方々をはじめ、いろいろな関係機関の方々に支えていただき、活動に取り組むことが出来ました。1 年目、2 年目の「有障者スキー教室」から数えると、これまで 18 回のスキー教室とバッチテスト、6 回のスキー大会を実施しました。昨シーズンのスキー教室では参加者・ボランティアを含め、五竜行事で 43 名、車山行事で 91 名の参加がありました。チャレンジカップスキー大会では参加者がまだまだ少ないものの、一般の方と同じコースを滑走し、完走した喜びの声を、参加者ご本人やご家族の方々からいただきました。一歩ずつではありますが前進してきたと考えています。ひとえに皆様のご協力があったからこそできたこととあらためて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ハンディキャップ委員会では、これらの活動の重要性を再認識し、スキーをはじめとするウィンタースポーツをより楽しみたいと望んでいる方々と共に、また一歩前進していきたいと思っております。過去の実践で得られた貴重な経験を踏まえ、今年度も疑似体験を通して、委員はもちろんボランティアの方々が、障がいについて理解を深め、よりよい支援活動が可能となるようにと「ハンディキャップセミナー（障害者のサポートについて・雪上でのサポート指導実践）」を開催いたします。また車山行事では、参加者の方々が参加しやすいように往復バスを利用し、ボランティア登録をいただいている方々のご協力のもと生活サポートも含めた取り組みを行ってゆきます。もちろんチャレンジカップスキー大会へのサポートもさらに力を注いでゆきたいと考えております。

これらの事業を実施するにあたっては、参加者の実費負担を原則とはいたしますが、セミナーや行事運営、委員諸活動、ボランティアへの謝礼その他に多くの資金が必要となっております。前年度まで、かながわ・ゆめ国体スポーツ振興基金と皆様にお願ひした「善意の賛助会費」を活用させて頂きましたが、基金が終了したこともあり、今年度より県連の予算を増やしていただくことと団体からの賛助会費で出来るだけ賄うようにいたします。今後ともハンディキャップセミナーへのご参加、ボランティア登録及びスキー教室等のボランティア参加、「善意の賛助会費」もあわせてよろしくお願い申し上げます。

なお指導員、準指導員の方々は、研修会・クリニックと併設で行われるハンディキャップ行事へのボランティアとしてのご協力は研修会、クリニック参加として認められますので、ふるってご参加ください。

(財) 神奈川県スキー連盟  
ハンディキャップ委員会  
委員長 越前谷芳隆